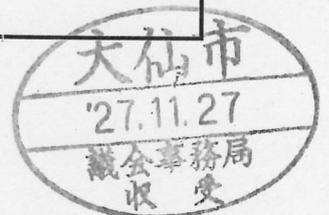


(様式第2号)

会派政務調査活動（行政視察）報告書
（総括）

会派名	日本共産党
会派の代表者名	佐藤文子
視察（調査）期日	平成27年10月19日（月）～平成27年10月21日（水）
視察（調査）先	兵庫県相生市及び南あわじ市
視察（調査）の目的 （大仙市の現状と選定理由等）	若者定住対策・子育て支援の各種策実施により、転入者数の増（相生市）、合計特殊出生率の増（南あわじ市）を見ていることから、人口減出生率低下の大仙市にも反映できる施策は何か選定した。
視察（調査）の行程	別紙のとおり
視察（調査）への参加議員名	佐藤文子 藤田和久
視察（調査）概要	相生市では、10月19日午後1時0分より、約2時間にかたり、子育て支援都市宣言のもと、定住促進事業「11の鍵」の事業内容と実績等について学んだ。人口減少は続いているものの転入が転出を上回る社会増と似た平成25年以後、年間の出生数は横ばいの事であった。 また、南あわじ市では10月20日午後1時30分より約2時間にかたり「子育てを産み育てたいまち」めざす、結婚促進や定住促進、10項目に及び子育て支援策について、学んだ。これにより、平成17年1.5月の合計特殊出生率は平成22年度には1.71に上昇との事であった。



視察(調査)の成果と本市に反映できる事項或いは反映させたい事項について

相生市・南あわじ市は、若者定住、子育て支援策に並々ならぬ決意と財政投資をしている。人口減少に歯止めをかけるため、両市の各施策の殆どが、大川市に反映させたいものである。相生市での学校給食無料、南あわじ市の3歳以上児保育料無料、両市の新婚世帯家賃補助、相生市の住宅取得奨励金、南あわじ市の縁結び事業などは、少子化対策・定住対策に貢献を期待していると考える。

その他
(会派としての総合的意見、上記成果への今後の取り組み等)

相生市・南あわじ市と、多岐にわたる定住・子育て支援における人口対策を伺っている。どの施策も「どれが有効か」と順序を付けたものはなく、移住・定住、結婚・子育て、働きやすさ・環境整備の総合的展開が必要との事であった。

次の回定例会等での取り組み計画
一 概管内